

令和4年度
大阪市NPO・市民活動
企画助成事業

報告書

学習プログラム事例集

まちづくり・市民学習応援コース

子育て・家庭教育応援コース



大阪市教育委員会

大阪市立総合生涯学習センター
(指定管理者:大阪教育文化振興財団・SPS共同事業体)

はじめに

社会の急激な変化に対応し、市民が人間性豊かな生活を営むために、現代的・社会的課題や、地域社会の課題解決に向けた主体的な学習機会の創出が生涯学習に求められています。

大阪市では、生涯学習を通じて現代的・社会的課題に取り組む市民グループやNPOなどを対象に、地域課題解決の学習プログラムを公募し、実施経費の助成や広報、報告会の開催などの活動支援を行うため、「大阪市NPO・市民活動企画助成事業」を実施しております。

事業の運営にあたっては、実施団体相互のネットワークづくりに留意し、広く事業効果が得られるよう進めるとともに、成果については、区や地域（教育コミュニティ）で活用できるプログラムとしてとりまとめ、プログラムの活用促進を図っております。

令和4年度はAコース（まちづくり・市民学習応援コース）5団体、Bコース（子育て・家庭教育応援コース）4団体の計9団体に事業を委託しました。

本報告書は、それぞれの団体の取り組みをまとめたものです。本事業が、生涯学習のネットワークの広がりや、市民の生涯学習の新たな展開へつながることを期待します。

令和5年3月

大阪市教育委員会

大阪市立総合生涯学習センター

令和4年度 大阪市NPO・市民活動 企画助成事業 実施団体一覧



まちづくり・市民学習応援コース

団体・グループ名

事業名

生涯学習「地域ICTクラブ」連絡会

ICTで地域をつなげる・拡げる
スマホ・ライン・zoom会議の基礎技能を身につけよう講座 … 4

特定非営利活動法人子どもセンターあさひ

暮らしの中のSDGs実践講座2022 … 6

天王寺区オレンジキャラバンの会

『なごみマフ』を作ろう … 8

なかつもりキャンドルナイト実行委員会

なかつもりキャンドルナイト … 10

あべのって学生部（あべのって）

学生の学びたいをかなえる あべのって学園 … 12



子育て・家庭教育応援コース

団体・グループ名

事業名

YON kitchen

はじめての食育cooking … 14

一般社団法人ニコウェイ

子ども食堂併設 学習支援café *nico* … 16

特定非営利活動法人
O'hana 親と子の絆を育むお手伝い

地域再生のためのスタート、育児支援の拠点づくりを考える … 18



ICTで地域をつなげる・拡げる スマホ・ライン・Zoom会議の 基礎技能を身につけよう講座

生涯学習「地域ICTクラブ」連絡会

事業のねらい 「ICTで地域をつなげる・拡げる講座」を企画・運営する。講座では活動団体の担当者向けにすぐに役立つスマホ・ライン・Zoom会議の基礎技能を習得してもらうことを講座開催のねらいとする。講座後半では受講生がグループを組んでオンライン会議を実際に実施するグループワークも計画している。

| | | | | | | | |
|----|-------|----|---------|------|-----|------|-----|
| 対象 | どなたでも | 定員 | 12人 /各回 | 申込者数 | 36人 | 参加者数 | 24人 |
|----|-------|----|---------|------|-----|------|-----|

- 1** 10/1(土) 14:00～17:00
オリエンテーション
「スマホ操作の基本と応用」

講師 高橋 純(ICTインストラクター)
会場 大阪市立総合生涯学習センター第6研修室
参加者数 5人

- 2** 10/15(土) 14:00～17:00
「ICT・情報社会の基礎知識
スマホ体験1(メール)

講師 上田 ヤマト(ソフト開発専門家)
会場 大阪市立総合生涯学習センター第6研修室
参加者数 6人

- 3** 10/29(土) 9:30～12:00
「ラインアプリの基本と応用」

講師 高橋 純(ICTインストラクター)
会場 大阪市立総合生涯学習センター第6研修室
参加者数 4人



参加者の声

- スマホの初步的な操作方法を丁寧に教えていただき感謝しています。
- ZOOM会議は参加するのは簡単だが、主催するには相当知識が必要だとわかりました。
- 情報社会の発達をそろばんから手回し計算機、コンピュータ、スマホまで発展的にわかった。

学習の総括



● 事業実施にあたっての工夫

事業実施体制・組織づくりについて

講座のねらいである扱い手養成という意味では1期・2期・3期修了生を中心として「地域ICTクラブ大阪」が立ち上がり、大阪市社会福祉協議会からの活動資金援助を得て地域でICTクラブ活動を進めている。講座では3年間で扱い手養成という目的が一応果たせたと考えたが、コロナ禍に対応するため地域活動でICT活用が緊急の課題となっている現実に直面し、4年目である本年度に「スマホ活用」の講座を新たに企画し過去の講座修了生にも実施体制に参画してもらって講座を実施した。

事業全体の計画、学習内容・形態について

3年間継続して実施してきた講座は地域における「プログラミング教室」の扱い手養成を中心内容としてきた。4年目の本講座は地域活動におけるICT活用が緊急の課題なので、地域における「スマホ活用」の活動要員養成と「スマホ活用教室」の扱い手養成という2重の講座で学習内容・形態を企画した。

地域や他団体・組織との連携について

地域での「スマホ活用」の活動要員養成に職務として積極的に担当しておられる大阪市市民局の「地域公共人材バンク」のICT専門家や各区役所の「まちづくりセンター」のICT専門家から本講座内容について助言をいただいた。その結果講師陣としてICTインストラクターの高橋純氏とソフト開発専門家の上田ヤマト氏を迎え、講師補助陣として本講座修了生の方々(地域ICTクラブ大阪の主要メンバー)を迎えて他団体・組織との連携を強化した。

● 事業実施の成果と課題(地域の課題解決につながったか)

本講座を実施することで地域で「スマホ活用教室」を実施するためのテキストと教材類を開発できたことが第一の成果だ。

第二の成果は、情報化社会の進展をそろばん、手回し計算機、コンピュータ、スマホという流れで整理するテキストが開発できたことだ。

第三の成果は、現代の情報社会を牽引する情報産業企業であるアップル社の創始者スティーブ・ジョブズ氏やアマゾン社の創始者ベゾス氏のパーソナルヒストリーを振り返ることで情報社会の本質を考えるテキストが開発できそうな見通しが得られたことだ。

● 事業実施後の展望

参加者数が少なかったが、原因は各地域で地域活動者向けの「スマホ活用教室」が多数実施されていたことが大きいと考える。本講座の蓄積を今後姉妹団体である「地域ICTクラブ大阪」の地域活動などに生かしていくたい。

● その他

令和5年度は初心に戻って地域の「プログラミング教室」扱い手養成講座の教材開発に取り組みたい。

生涯学習「地域ICTクラブ」連絡会

活動目的 担い手養成講座の企画・運営

活動紹介 市内で地域活動としてICTクラブを運営している団体が連絡会を結成

活動開始時期 2018年4月

団体構成員数 6人

団体HP なし



暮らしの中のSDGs 実践講座2022

特定非営利活動法人子どもセンターあさひ

事業のねらい コロナ禍にあたって持続可能な社会づくりの重要性を再認識し、子ども向けのSDGs体験(環境に配慮したものづくり体験)を重視して、学んだことを日々の生活に活かせる講座を開催し、持続可能な社会づくりに貢献できる学び・体験・交流の場を作ります。

対象 どなたでも 定員 30組

申込者数 41人 (大人22人 子ども19人)

参加者数 36人 (大人19人 子ども17人)

1 7/3(日)10:30~12:00 「はじめてのLFCコンポスト講座」

講 師 森 ゆみ(LFCコンポストアドバイザー)

会 場 子どもセンターあさひ

参加者数 14人



2 9/4(日)11:00~15:00 「家庭菜園～自然農法とは～」

講 師 赤井 美智子(自然農法実践家)

会 場 子どもセンターあさひ

参加者数 18人



3 1/22(日)10:30~12:00 「はじめてのLFCコンポスト講座」

講 師 森 ゆみ(LFCコンポストアドバイザー)

会 場 子どもセンターあさひ

参加者数 4人



参加者の声

- 自分たちが住んでいる地球にエコなことをしてみたかったけど行動に移せなかったので、身近なことからコツコツしていきたいです。
- すごく興味をもてるような話で、図や写真もわかりやすかったです。「子どもセンターあさひ」の他の講座にも参加してみたいと思いました。コンポストでおいしい野菜をつくり、きれいなお花を咲かせたいです！

学習の総括



● 事業実施にあたっての工夫

事業実施体制・組織づくりについて

法人として子ども達の体験活動(舞台鑑賞・自然体験・ものづくり体験)を通じ、感じ・考え・行動できる力をのばせるよう企画を行っている。環境問題等をテーマにしたドキュメンタリー映画の上映会等を通して、関わる大人に向けての学習を継続している。

事業全体の計画、学習内容・形態について

親子で学べる内容で企画を行い、座学だけではなく日常生活で実践できるようつなげた。

地域や他団体・組織との連携について

子どもに関わる活動をされている団体へ案内を行った。

● 事業実施の成果と課題(地域の課題解決につながったか)

自然との共生につながるライフスタイルへの関心は高まっているが、具体的な実践法を学ぶ機会が少ない中、親子で遊べ、家庭や職場で実践したいとの意欲につながった。

● 事業実施後の展望

日々の生活に活かせる学びの場が必要であり、今後も親子でも学べる場、実践に活かせる学習の場をつくりていきたいと考えている。



特定非営利活動法人子どもセンターあさひ

活動目的 异年齢の子どもたちが共に育ちあう場とし、週末等を地域の子どもたちに広く開放し、子どもと青年が中心になって、異世代交流を促し、環境・人権・平和・国際協力などについて学び合い、男女参画社会を目指したまちづくりに地域の人たちと共に取り組むことで、子どもと青年の未来を切り開く教育・文化を発展させることを目的とする。

活動紹介

- 体験学習事業「寺子屋」・「わくわく子どもキッチン」/自然体験「田植え・稻刈り」「キャンプ」
- 舞台鑑賞事業(年間2回)
- 学習会／講演会(年間2～3回)
- 地域住民との交流事業 まつり(年間1回)
- 子育て支援事業「リラミック～リラクゼーションリトリトミック～」(月2回)

活動開始時期 2002年5月 **団体構成員数** 90人 **団体HP** <http://www.kodomo-center.org/>



『なごみマフ』を作ろう

天王寺区オレンジキャラバンの会

事業の
ねらい

認知症の混乱症状を緩和させるといわれているイギリス発祥の認知症マフを多くの方に知ってもらい、認知症について考えるきっかけを作る。地域で孤立しがちな高齢者、認知症当事者や家族にも、気軽に参加して一緒に作業してもらえる交流の場を作る。

対象 どなたでも

定員 10人
/各回

申込
者数 84人

参加
者数 84人

1 7/4(月) 13:30~15:00 「なごみマフ ワークショップ」

講 師 不破 玲子

会 場 新聞印刷本社ビル

参加者数 5人

2 ~ 5 7/17(日)、10/17(月)] 15:00~16:00 11/20(日)、1/15(日) 「なごみマフ 展示&譲渡会」

講 師 西村 由紀子

会 場 あべのハルカス近鉄本店

参加者数 計50人

6 8/1(月) 13:30~15:00 「なごみマフ ワークショップ」

講 師 辻 恵子

会 場 新聞印刷本社ビル

参加者数 6人

7 9/5(月) 13:30~15:00 「なごみマフ ワークショップ」

会 場 新聞印刷本社ビル

参加者数 3人

8 10/3(月) 13:30~15:00 「なごみマフ ワークショップ」

講 師 岡林 広子

会 場 新聞印刷本社ビル

参加者数 5人



参加者の声

- 自分の作ったマフが誰かの役に立つと思うと嬉しい。
- 施設にいる母に届けました。暖かくて気持ちいいとても穏やかな笑顔を見せてくれました。
- いろいろ人と知り合えて楽しい。昔からやっていた編み物で社会貢献ができるとは思わなかったので、ゆっくりですが楽しんで参加します。

学習の総括



● 事業実施にあたっての工夫

事業実施体制・組織づくりについて

マフ作りのワークショップは、認知症カフェ内で開催。お茶を飲みながら気軽にワークショップに参加してもらえるようにした。ワークショップ内でボランティア同士で教えあえる場を作ることで、他者との関わりを積極的に持つていただく。

“自宅で出来る社会貢献”として、誰でも家でも気軽にできるボランティア活動にしたことで、年齢や住んでいる場所に関係なく参加できると喜ばれている。

事業全体の計画、学習内容・形態について

希望者には編み図や見本のマフを無料で配布。展示＆譲渡会を開催することで、自分の作ったマフが誰かの役に立つことを実感でき、ボランティア活動の継続に繋がっている。

地域や他団体・組織との連携について

認知症マフに取り組む大阪府内の社会福祉協議会や他のボランティア団体、地域の高齢者施設との連携。

認知症マフを日本に導入した朝日新聞厚生文化事業団と連携し、新聞に取り上げて頂き、大阪市以外からもお問い合わせがくるようになった。

● 事業実施の成果と課題(地域の課題解決につながったか)

『なごみマフって何?』から、30歳代～90歳代の幅広い年代の方が認知症について興味を持ち、認知症について正しい知識を身につけて関わってくださる方が増えた。なかなか外出の機会のない地域の高齢者が、編み物なら自分でもできる!とボランティアとして関わってくださるようになった。

認知症マフに取り組む大阪府内の社会福祉協議会や他のボランティア団体と繋がり、マフの譲渡や情報交換の場を持つことができた。また、天王寺区社会福祉協議会や地域の高齢者施設との連携を取ることで、地域の一人暮らしの高齢者や施設の入居者に『なごみマフ』を届けることができた。

認知症マフを日本に導入した朝日新聞厚生文化事業団からもお声がけ頂き、新聞に取り上げていただいたことで大阪市以外からもお問い合わせがくるようになり、他府県の方にもなごみマフを知って使ってもらえるようになってきている。

● 事業実施後の展望

認知症だから、高齢者だから、障がいがあるから何もできないのではなく、地域には様々なスキルを持つ素晴らしい人々がいることがわかり、使う側だけではなく一緒に社会貢献として作る側になってもらえるようなワークショップを開拓していく。社会福祉協議会等と連携を密にし、地域の必要な皆様にお届けしたい。

天王寺区オレンジキャラバンの会

活動
目的

認知症センター・キャラバンメイトが中心となり、認知症について正しい知識をもった人を増やし、子どもから高齢者まで、認知症を他人事ではなく自分のこととして考えてもらいたい。そして、認知症当事者とその家族の行き場を地域に作りたい。

活動
紹介

認知症マフ『なごみマフ』の作成、認知症カフェ運営、脳トレ
カジノ開催、認知症センター養成講座主催

活動開始
時期 2020年4月

団体
構成員数 7人

団体
HP なし



Aコース

なかつもりキャンドルナイト

なかつもりキャンドルナイト実行委員会

事業のねらい Withコロナで新しい地域活動のカタチとして、①あかりのワークショップ②あかりのイベントで、地域魅力創造とコミュニティ形成を行う

対象 中津住民や訪れる人をはじめどなたでも

定員 30人

申込者数 18人
(大人14人 子ども4人)

参加者数 18人
(大人14人 子ども4人)
(※イベント参加約200人)

1 7/26(火) 13:00~16:00 「どうぶつライトづくり」

講 師 橋田 裕司(照明デザイナー/ 照明塾主宰・塾長)

会 場 中津福社会館

参加者数 6人



2 8/11(木・祝) 13:00~17:00 「牛乳パックライト&キャンドルづくり」

講 師 井口 香織(キャンドルアーティスト/上級バースデープランナー)

会 場 UPCYCLE中津荘 コミュニティスペース

参加者数 4人



3 10/5(水) 13:00~16:00 「ナカツコウモリ」

講 師 橋田 裕司(照明デザイナー/ 照明塾主宰・塾長)

会 場 UPCYCLE中津荘 コミュニティスペース

参加者数 8人

4 10/29(土)~11/20(日) 11:00~18:00 あかりイベント 「なかつもりキャンドルナイト」

会 場 UPCYCLE中津荘
コミュニティスペース、廊下及び108号室

参加者数 延べ約200人



参加者の声

- どうぶつかわいいライトができるので、灯すのが楽しめます。
- 夏休みの自由研究の宿題にもなるので、つくれてよかったです。
- ジェルキャンドルというのがあるのを知らなかった。自分のまちにもこれをつかったキャンドルナイトを提案してみたい。
- 光が漏れる作品が子どもたちにどのように楽しんでもらえるのか楽しみ。

学習の総括



● 事業実施にあたっての工夫

事業実施体制・組織づくりについて

・事業実施体制について

初年度は、組織づくりも仲間集めも不安要素が大きいため、雨の日でも安心な部屋の一室&UPCYCLE中津荘の廊下点灯、点灯期間は地域のイベントと開催日を重ねた10月29日~11月20日で実施。小規模でありながらも長期間にしたことで、当初の予定からボランティアスタッフが減っても対応できたことと、たくさんの方に見にきてもらうことができました。

・組織づくりについて

お互いにフォローアップできる体制にすることや、単年ごとに見直しをする組織であることの合意形成の上、事業を行った。

事業全体の計画、学習内容・形態について

講師のワークショップ開催スケジュールに大幅な見直しがあり、日程変更をしたことにより、ボランティアスタッフのスケジュールが合わなくなる事態となった。その結果、当日のイベント内容も変更したりとハプニングが多発した。

しかし一方で、地域にある小学校、幼稚園や保育園が予想以上に協力をしてくれた面もあった。保育園は課外学習の拠点として散歩コースに入ってくれたり、企画時には想像できないくらい、子どもから大人まで楽しんでもらえる地域に密着したイベントになった。

地域や他団体・組織との連携について

地域の施設やイベントでチラシの配布、地域の保育園・幼稚園ではキャンドルを飾る用紙にイラストを依頼した。また、キャンドルナイトのイベントではアーティストとのコラボ作品を展示したり、地元企業からのLEDライトの貸出に協力をいただいた。

● 事業実施の成果と課題(地域の課題解決につながったか)

今年はまだ実行委員会組織としては初年度運営であることや、コロナ禍の中での開催だったため、状況が変化することも考慮し、小規模な計画に留めたが、当初2日間⇒23日間の展示期間に延長したことが功を奏した。企業から協賛や、地域の協力も数多く得られた。

● 事業実施後の展望

“あかり展示”といつてもさまざまなやり方があることを学んだ。

また、自分たちがイベントを開催することで、他で実施されている“あかり展示”にも興味が湧き、どのような仕組みでされているのかなど、イベントの背景を知ろうとすることで今後の自分たちのイベントにも活かしていく学びがあった。

今年は第1回目ということでさまざまなステークホルダーとの調整が大変だった。しかし、やってみると次の手立てが見えてくるし、来年に向けて真の協力者も得ることができた。

ボランティアスタッフは、今回の経験を通して、子どもたちの笑顔が自分たちの活力およびまちの活性化になることを経験をしたと思う。来年の組織は、「子どもたちを中心に、まちのいろんな人が喜んでくれるかを真剣に考える人たち」のチームで組織を形成できたらよいと思う。

● その他

何事も考えるばかりではなく、やってみないとわからないことだらけだが、一番よかったことは今年は無理せず小規模開催に留めたこと。1年目から疲弊するようなイベントでは継続しない。実行委員メンバーがまた来年もやりたいと思う気持ちを共有できることで、共感してくれる身近な人に伝わり、訪れる人たちへ共鳴していくことへと発展するのではないかと思う。来年は、実行委員会含め、イベントをつくるE S P の学生さんたちとも連携し、産学民連携で官(行政)も巻き込んでいきたいと思う。

なかつもりキャンドルナイト実行委員会

活動目的 地域コミュニティの形成

活動紹介 あかりのワークショップとイベントを開催して、まちの魅力創造とコミュニティ形成

活動開始時期 2022年2月

団体構成員数 6人

団体HP <https://www.instagram.com/nakatsucandle/>



学生の学びたいをかなえる あべのって学園

あべのって学生部(あべのって)

事業のねらい 地域や社会でもっとチャレンジしたい学生が活動の一歩を踏み出すきっかけとして、さまざまな視点のプロをゲストに迎え、学びながら学生主体で地域の魅力発信「なぞときマップ」を完成させ成果物はもちろん、スキルアップ、成功体験の獲得や地域でのつながりの形成をめざします。

| | | | | | | | |
|----|-------------------------------|----|------------|----------|---------------------|----------|---------------------|
| 対象 | 阿倍野区在住・ 在学の学生をはじめ どなたでも | 定員 | 15人 /各回 | 申込 者数 | 24人 (大人2人 学生22人) | 参加 者数 | 24人 (大人2人 学生22人) |
|----|-------------------------------|----|------------|----------|---------------------|----------|---------------------|

- 1** 7/9(土) 13:00~15:00
「令和の伊能忠敬～百聞は一見にしかないんです～」
[地域のマップづくりって？]

講師 伊藤 千春(桃谷ロイター編集長)
mutsumi(イラストレーター)
多田 裕亮(グラレコ)
会場 シェアキッチン&スペースbotan
参加者数 5人



- 2** 7/18(月・祝) 13:00~13:50/15:30~17:00
「知りたくない？なりたくない？
謎解き界のナポレオン」[謎解き講座]

講師 加藤 亮(ボードゲームカフェデザート*スプーン)
会場 シェアキッチン&スペースbotan/ボードゲームカフェデザート*スプーン
参加者数 5人



- 3** 7/18(月・祝) 14:00~15:20
「アベノ区エスト」[阿倍野区町歩き講座]

講師 末元 花(ローカルコーディネーター)
会場 阿倍野区内
参加者数 5人



- 4** 10/21(金) 18:00~19:30
「聞き出すのか？聞きださないのか？どっちなんだい！」
[取材講座]

講師 林 静香(一社 codomotoままっち代表/あべの子ども記者クラブ講師)
会場 ままっちひろば西田辺
参加者数 9人



参加者の声

- 街のことを全然まだ知らないけど良さを知つていて嬉しいと思えるマップを作っていくたいです！
- 次は自分たちが講師の方のように密接に地域と関わり素敵なマップが作れるようにしていきたいと思います。本当にありがとうございました。

学習の総括



● 事業実施にあたっての工夫

事業実施体制・組織づくりについて

- ・コアメンバーだけでなく依頼した講師と共に講座やマップ自体の内容、学生との関係の進め方など話し合いながら進めた。
- ・広報や連絡などを若い世代に合わせた方法(LINE/Instagramなど)で実施した。

事業全体の計画、学習内容・形態について

- ・ネットワークを活かして阿倍野周辺の地域に特化した、また会うことのできる方に講師を依頼し学生との関係構築を意識した。
- ・学生にとって堅苦しく感じずワクワクしてもらうため、会場はお店や街中のスペースなどを利用した。

地域や他団体・組織との連携について

- ・事業内容や広報を他の地域団体などの協力を仰ぎ、大人の方へも活動自体を知つてもらうきっかけとした。

● 事業実施の成果と課題(地域の課題解決につながったか)

- ・講座全体を通して地域団体・場所・魅力に触れてもらい、興味関心をより持つてもらうことができた。
- ・少し専門的な講座にしたことでも、参加した学生が今後自分たちで活動をしていく中で使えるテクニックなどを学んでもらうことができた。
- ・さまざまな学生への周知、参加の促しが課題。ハードルが低く参加しやすい講座にするか、まずは交流会からの参加とするか、参加促進のフローを改めて考え方団体の体制を設計していくことが必要。

● 事業実施後の展望

- ・講座からスタートした謎解きマップづくりは地域学生数人により受験ポートフォリオとしての紙面作成が進められている。2月には区内高校への配布予定。
- ・4つの事業を実施し、広報することにより、あべのって学生部がどういった学生のサポートをしていきたいか、具体的に示し動いていくことができ、参加していただいた学生との関係性も少しづつ構築していく。地域の他の団体や大人の方も活動や学生に興味を持って協力してくださる方も増えてきた。
- ・今後は定例の交流を続け何かやってみたい学生が気軽に集まる場を開きつつ、それぞれの学生のニーズを聴きながら講座やイベントなどを企画していきたい。

● その他

- ・あべのって学生部の活動を通して、さまざまな素晴らしいアイデアや興味関心、行動力のある学生がたくさんいること・学生のための活動の意義をたくさんの方に知つていただき、地域全体で学生を応援できるマインド・環境を持つことができたら嬉しいなと思います。

あべのって学生部

活動目的 学生が地域活動に興味を持つ・
参加する機会を増やす。

活動紹介 学生が集まりやすい時間に月1回、学生と地域の大人が集まりやってみたいことやつながりたい人、困っていることなどを気軽に話す場を開いている。また、学生から出てきたやってみたいことやアイデアについて、関係機関との折衝や企画のサポートを行っている。

活動開始時期 2021年12月

団体構成員数 約20人

団体HP https://www.instagram.com/abenotte_gakuseibu/



よん きっしん YON kitchen

事業のねらい 次世代を担う子どもたちや子育て中の親世代、親子、大人を対象に、食の楽しさや大切さを伝え食について体験の場を提供します。感染対策をとったcooking体験を取り入れ、食の学びとともに、SDGs、環境問題をはじめさまざまな暮らしの課題解決に貢献します。

| | | | | | | | |
|----|-----------------------|----|----------------|------|-------------------------------------|------|-------------------------------------|
| 対象 | ①小学生以上の子どもと保護者 ②大人 | 定員 | ①各回4組 ②各回8人 | 申込者数 | ①15人(大人8人 子ども7人) ②8人(大人7人 子ども1人) | 参加者数 | ①15人(大人8人 子ども7人) ②8人(大人7人 子ども1人) |
|----|-----------------------|----|----------------|------|-------------------------------------|------|-------------------------------------|

1 7/17(日) 11:30~13:00/14:00~15:30 「はじめての食育cooking～SDGs昆虫食の世界～ 未来のカレーを作つてみよう」

講 師 池田 未歩(株グリラス広報担当)

会 場 ハルカス近鉄百貨店 キッチンスタジオ

参加者数 15人



2 11/27(日) 11:00~12:00/13:00~14:00 「食×シンプル 人にも地球にも優しいシンプル生活について」

講 師 黒木 恵(Maru plant based market)

会 場 OSSO MARKET&KITCHEN(長居公園)

参加者数 8人



参加者の声

- これからコオロギの食材としての評価が見直されていきそうだなと感じました。
- SDGs、旬の野菜など勉強のことを含めてとても楽しい時間になりました。
- 子どもたちもとても楽しそうにしていておいしく食べられて勉強になりました。
- 目から鱗のお話が聞けて、家でもすぐ実践してみたい。

学習の総括



● 事業実施にあたっての工夫

事業実施体制・組織づくりについて

- 団員メンバーそれぞれが会場視察、資料収集を行い密に連絡を取り合い当日にむけて準備した。
- コロナ感染対策について、人数制限、徹底した消毒を心がけた。
- 参加者と直接連絡を取り合い、アレルギーの有無を聞き取り、事故のないようにした。
- 当日のやむ得ない急な中止(コロナ感染増加や天候の悪化)があった場合やキャンセルの連絡、場所がわからない時の連絡のため当日連絡のつく電話番号を聞き対応できるようにした。

事業全体の計画、学習内容・形態について

- 2年目にあたる本助成事業はSDGsをテーマに計画をした。
- 新しい食材に注目し、親子が楽しんでできる学習内容、調理体験を盛り込んだ。
- 子育てをしていなければ参加できないかという問い合わせがあり、社会全体で子育て・家庭応援ができる内容を発信していきたいと考え、幅広い層の大人も参加対象とした。
- 参加対象の30~40代世代を意識してSNS告知、Instagram、情報ネット「いこーよ」に掲載した。

地域や他団体・組織との連携について

- コオロギパウダーの販売元のグリラス株式会社の広報担当者とオンライン打ち合わせを重ね、当日は徳島よりお越しいただいて、参加者にわかりやすい資料や、市場では手に入らないコオロギの粉碎前の現物をご持参いただいた。
- 8月にオープンした長居公園内の OSSO MARKET&KITCHEN にて講座をはじめて行いました。食の文化交流館として、事業が終わっても食のワークショップを行い、子育て・家庭教育の応援の活動を続けていきたい。

● 事業実施の成果と課題(地域の課題解決につながったか)

成果として事業実施後の参加者アンケートでは大変満足だったと高評価が得られた。親子で包丁や火気を使う調理体験ができたことは、コロナ禍により体験する機会を失っている今、大変喜ばれる成果がうまれた。食育活動を通して、親子がコミュニケーションをとりながら、食の大切さ、旬から季節を体験することで、自分の健康を守り身近な人への感謝の気持ちを養い、食べ物を大切にする学びへつながった。

課題として講座申込人数が伸びず、定員を下まわった。告知時期、告知方法を検討したい。

● 事業実施後の展望

- SDGsをテーマに開催したが言葉については子どもたちはよく知っていた。「フードロス」や「フードレスキュー」といった食に関する分野について今後もワークショップを展開していきたい。
- 長引くコロナ禍ではあるが、子どもたちの体験の場を失わないよう対策を万全にし、今後も活動を続けていきたい。

YON kitchen

活動目的 食の好奇心を引き出しながら楽しく学べる食体験のワークショップを行う。

活動開始 子どもや親子を対象に、食の楽しさ大切さを伝える活動を関西中心に各所で行っている。

活動紹介 2019年～ 団体構成員数 5人 団体HP <https://www.instagram.com/yonkitchen>





子ども食堂併設 学習支援 café *nico*

一般社団法人ニコウェイ

事業のねらい コロナ禍で子ども食堂や学習支援の活動が激減する今、必要性を強く感じており、地域社会と一緒に子どもを育てるようなコミュニティを確立し、孤立せず安心して暮らせる市となることをねらいとして活動しています。

| | | | | | | | |
|----|-------|----|-----------------|------|-----------------------|------|-----------------------|
| 対象 | 小・中学生 | 定員 | ワークショップ :各5人 | 申込者数 | 89人 (大人19人 子ども70人) | 参加者数 | 89人 (大人19人 子ども70人) |
|----|-------|----|-----------------|------|-----------------------|------|-----------------------|

1 7/17(日) 10:00~11:00
「清涼ミスト作り」
講師 古木 ちえこ(エッセンシャルオイルリスト)
会場 ぐるぐるそだつながや 参加者数 4人

2 7/17(日) 14:00~15:00
「ドライフラワーでリース作り」
講師 AKKI(フラワーデザイナー)
会場 ぐるぐるそだつながや 参加者数 8人

3 7/21(木) 16:00~19:00
「学習支援 オリエンテーション」
講師 辰野 真里子(一般社団法人 ニコウェイ 代表)
会場 安住荘 参加者数 4人

4 ~ 9
8/18(木)、9/15(木)
10/20(木)、11/17(木) 16:00~19:00
12/15(木)、1/19(木)
「学習支援と夕食提供」
会場 安住荘 参加者数 計38人

10 9/18(日) 12:00~13:00
「香るスライム作り」
講師 古木 ちえこ(エッセンシャルオイルリスト)
会場 ぐるぐるそだつながや 参加者数 9人



参加者の声

- 地域イベントが減っていたので、色々な人と交流できる機会があって嬉しいです。
- いつも楽しみにしています！
- 親子で参加できるワークショップがあって、一緒に楽しみながら学べるのがいい。



学習の総括



事業実施にあたっての工夫

事業実施体制・組織づくりについて

子ども食堂イベント内のワークショップに関しては、講師の方との連携をとり、イベントの主旨に合うよう親子で楽しんでもらえたり、子育て中の大人が少し羽を伸ばしてホッとできるような形で実施できるよう工夫した。

学習支援に関しては一からの体制づくりだったので、サポートスタッフが集まるのか…など不安に思う部分もあったが、子どもと普段あまり接すことのない学生スタッフから、経験豊富な社会人スタッフまで、バランス良くスタッフが集まり、利用してくれている子どもたちとも打ち解けてすごく居心地の良い空間づくりができた。

事業全体の計画、学習内容・形態について

事業全体の計画としては、コロナ禍で人々の交流の場が激減している今、地域社会と一緒に子どもを育てるようなコミュニティを確立し、孤立せずにみんなで支えていけるような活動となることをねらいとし、学習内容についても親子と一緒に学べる内容のものを講師の方にお願いし、ホッとできる居心地の良い居場所作りに力を入れ取り組んだ。

地域や他団体・組織との連携について

地域との連携では、地域の町会と連絡を取り合い、回覧板や掲示板での活動の周知にご協力いただいている。平野区の社会福祉協議会の方とも連携をとり、今の活動の現状や今後の活動の展開についても相談し、アドバイスを仰いでいる。

事業実施の成果と課題(地域の課題解決につながったか)

コロナ禍において皆が少し、状況に慣れてきているものの、まだまだ終息というところまでは行き着いていない現状において、当団体の子ども食堂イベントや学習支援が子どもたちやその保護者の方々や地域の方々の交流の場や息抜きの場所になっているという嬉しいご意見をいただき、事業の成果を感じている。

事業実施後の展望

コロナ禍ということも考慮し、毎回のワークショップごとの参加者数は制限しての実施となつたが、多様な内容のワークショップを多数開催し、たくさんの方にご参加いただけた。

今後も地域の方々の学びを続けていく場であつたり、交流の場として、その時の状況に応じて工夫をしながら、主催者側も参加者もワクワクするような事業展開を考えたい。

一般社団法人ニコウェイ

活動目的 子どもが孤立せず安心して暮らせるコミュニティ作り

活動紹介 子ども食堂イベントを2ヶ月に1度開催、学習支援を1ヶ月に1度開催

活動開始時期 2021年7月~
(学習支援) **団体構成員数** 5人 **団体HP** なし





地域再生のためのスタート、 育児支援の拠点づくりを考える

特定非営利活動法人O' hana 親と子の絆を育むお手伝い

事業のねらい 地域の子育て家庭の親とその子どもが求めている育児支援の多様なニーズを整理し、拠点を設けることで実現可能となる育児支援のあり方を考える。また、その支え手となる地域力を高め協働することを事業のねらいとする。

対象 どなたでも

定員 30人

申込者数 36人

参加者数 31人

1 8/24(水) 10:00～12:00 「今の地域の子育て状況」

- 妊娠期からの子育て支援の最近の状況について
- 今ママたちの育児の様子と困りごとについて

講 師 渡辺 和香(NPO法人pokkapoka代表)

会 場 大阪市立総合生涯学習センター

参加者数 8人



2 9/28(水) 10:00～12:00 「子どもと家族を支援する場を地域の中で」

- 支援の必要な親と子を地域の中で支援するために
- 大津市で支援されている幸重さんの実践を聞く

講 師 幸重 忠孝(こどもソーシャルワークセンター代表)

会 場 大阪市立総合生涯学習センター

参加者数 12人



3 10/26(水) 10:00～12:00 「自分たちが地域の中でできること」

- これまでの学びから、自分たちが地域で具体的に何ができるかを考える

講 師 山田 裕子(NPO法人O'hana親と子の絆を育むお手伝い代表理事)

会 場 大阪市立総合生涯学習センター

参加者数 11人



参加者の声

- 志の高い方々のお話が聞けたことが良かった。続けていくこと、また次につなげていくことの難しさなどを知りました。
- 地域の支援に関してのアイディアやヒントにつながりました。とても勉強になりました。
- とても具体的で深層部分の問題も見えやすく分かりやすかったです。リアルな現実、率直な実感のこもった話がとても心に入りやすかったです。

学習の総括



● 事業実施にあたっての工夫

事業実施体制・組織づくりについて

- 事業実施にあたり、広報のためのチラシ作成、講師依頼、講座内容のすり合わせなどを分担して行った。
- 広報は、「いちょう並木」8月号への掲載、「いちょうネット」での公募、チラシの配架を行った。
- チラシは、広報支援の協力を得て、生涯学習センター所管施設、区役所(区民情報コーナー)に設置することができた。

事業全体の計画、学習内容・形態について

- 3回連続講座として計画した。連続受講の希望者は全体の56%、結果として単回受講者の割合も多かった。
- 講座①と②については、座学の形態で実施し、講座③では、グループ討議の形態で実施した。
- 学習内容については、計画したテーマで実施することができ学びを深めるとともに、受講者の思いを共有することができた。

地域や他団体・組織との連携について

- 大阪市民生委員児童委員協議会に働きかけ、会長会を通じて市内各区の民生委員児童委員協議会へ周知した。
- 大阪市社会福祉協議会に働きかけ、市内各区の社会福祉協議会にチラシの設置を依頼した。

● 事業実施の成果と課題(地域の課題解決につながったか)

- 乳幼児期からの育児支援の現状を知り、また課題を抱え地域で生活する親と子の支援と現状について学ぶことで、自分たちの地域で身近な支援者となることの必要性を知つてもらえたと思う。地域の育児支援の課題、予防的かかわりの大切さと、今の自分たちにできることを考え、話し合うことができたと思う。
- このまま終わるのではなく、受講生が希望されるなら、地域の子育て支援の実践ができるようサポートしていくようにするのが課題。

● 事業実施後の展望

この講座で出会った人たちが、O'hanaの講座を受講してくれ、それぞれの地域の育児支援の実践につながつていけるよう働きかけていきたい。

● その他

連続講座の初回が、学校の夏季休業期間であったこと、いずれも平日の午前中の設定であったことなど、事業の実施にあたり参加しやすい日時設定であったかどうか、今後の検討課題と捉えている。

特定非営利活動法人O' hana 親と子の絆を育むお手伝い

活動目的 虐待のない、誰もが安心して子育てできる社会の実現

活動紹介 初めての子育てや何らかの理由によって不安を感じている方を対象とした家庭訪問による育児支援

活動開始時期 2016年10月 団体構成員数 18人 団体HP <https://ohana13.com/>

中間交流会

令和4年8月27日(土) 10:00~12:00

実施団体同士の交流を目的として、事業計画や工夫した点、活動の悩み事などを発表・共有しました。



参加団体の感想・コメント

- ・色々な活動内容や工夫されているところも知ることができ、学びが多かったです。
- ・他の団体が活動している内容の理解を深めることと、困りごと・工夫がわかって良かった。
- ・皆様の活発な活動から刺激を受けた。

実施報告会

令和5年2月18日(土) 10:00~12:00

今年度の実施事業について各団体より報告を行い、今後の活動について有識者からアドバイスをいただきました。



参加団体の感想・コメント

- ・他の団体の実践を知ることができた。「活動することで新たな展開がある」との助言に勇気をもらった。
- ・自分達の活動に活かせそうな素晴らしい活動のお話が聞けてとても良かった。

大阪市NPO・市民活動 企画助成事業 募集について

大阪市NPO・市民活動 企画助成事業の募集のご案内は、総合生涯学習センターのホームページ・SNSや、大阪市内の市民学習センター・区役所・区民情報センター・図書館等で配架予定の募集パンフレットをご覧ください。



HP: 大阪市立総合生涯学習センター
<https://osakademanabu.com/umeda/>



Facebook:
<https://www.facebook.com/sougoullc/>



令和4年度 大阪市NPO・市民活動 企画助成事業 事業実施の流れ

- 募集受付 令和3年12月1日(水)～2月13日(日)
- 個別相談 令和3年12月1日(水)～随時対応
- 有識者会議 令和4年3月22日(火)
- 実施団体への説明会 令和4年4月16日(土)
- 事業の実施 令和4年7月1日(金)～令和5年1月31日(火)

【助成団体の取り組み】

- ・企画・実施の準備
- ・チラシの作成・広報、受講者募集の受付
- ・講座等の実施
- ・アンケート回収
- ・報告書類の作成・提出

【総合生涯学習センターの支援】

- ・実施経費の助成(委託対象経費の75%以内で上限20万円まで)
- ・「いちょう並木」や「いちょうネット」への記事掲載などの広報協力
- ・総合生涯学習センターや阿倍野・難波の市民学習センターの会場確保
- 中間交流会の開催 令和4年8月27日(土)
- 報告会の開催 令和5年2月18日(土)

お問い合わせ



大阪市立総合生涯学習センター

〒530-0001 大阪市北区梅田1-2-2-500(大阪駅前第2ビル5・6階)

TEL:06-6345-5004 FAX:06-6345-5019

<https://osakademanabu.com/umeda/>

開館時間 午前9時30分～午後9時30分(日・祝は午後5時まで)

休館日 毎月第1・第3月曜日/年末年始(12月28日～1月4日)

令和4年度 大阪市NPO・市民活動 企画助成事業 報告書

編 集 大阪市立総合生涯学習センター
(指定管理者:大阪教育文化振興財団・SPS共同事業体)
大阪市北区梅田1-2-2-500

発 行 大阪市教育委員会

発行日 令和5年3月